



校長通信『道標(みちしるべ)』 第13号

令和3年3月19日

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



明日は二十四節気の春分です。
(昼の長さや夜の長さがほぼ同じ)

令和2年度 第3学期 終業式に当たって

令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止対策により、約2か月間の臨時休校から始まりました。そして、学校の新しい教育様式の実施、更には学習の遅れを取り戻すための7時間授業、夏季休業期間の縮減、就職採用選考期日の1か月間延期など、これまで経験ないことに対応してきました。このことについて、生徒の皆さんの努力と先生方の適切な指導により、大過(たいか：きわめて大きいこと)なく終業式を迎えられたことに感謝します。

また、本年度の創立60周年記念各行事を滞りなく実施することができました。このことにより、生徒の皆さんの「心の成長」と本校の更なる発展に繋がったことにも感謝します。しかし、残念なことは1学期の検定試験や皆さんが楽しみにしていた「体育祭」、2年生の「研修旅行」の中止など、生徒の皆さんはもちろん、先生方も心を痛め、大変残念に感じています。来年度こそは、工夫を重ね、これら皆さんの「志」の実現に近づくための取り組みや、心の成長につながる様々な学校行事ができるよう、努力して行きたいと考えます。

さて、本年度は「志を立てて、もって万事の源となす」と本校の教育目標を掲げました。「何事も志がなければならぬ。志を立てることが全ての源となる。」とお伝えしました。「こころざし」つまり「なりたい自分」、「自分らしく善く生きようとする志向(しこう)」は見つけましたか。人として生まれてきた以上、動物とは違います。人は徳を積み、己(おのれ)の人生の目標に向かって歩いて行かなければいけません。

学年の終わりに、みずからが歩いてきた足跡を確認してみましょう。期待を膨(ふく)らませ高校へ入学した頃のこと。はじめて本校の制服を着用して校門に入った時の感動。保護者等の皆さんの笑顔と期待。あの清らかな瞬間に思いを馳(は)せてみましょう。

**あの頃の「こころざし」を日々の生活の中で見失ってはいないか。
あの時に誓った目標、崇高な「こころざし」は色褪(いろあ)せてはいないか。**

「こころざし」とはその人の、在り方・生き方の礎(いしずえ)となります。迷ったり、流されていると感じた時、自分の「こころざし」に立ち返る。「こころざし」がある人は強い。なぜなら自分がやるべきこと、たどり着くべきところが分かっているからです。なにより、ブレない生き方ができます。「こころざし」を確認するために自分と向き合う訓練をすることで、ブレない芯が固まり、自己が確立されていきます。そのことで「たのもしい大人」に近づきます。

— 第三学期 終業式校長式辞から —

ようこそ若商へ - 令和3年度高等学校入学者選抜合格発表 -

3月18日(木)令和3年度福岡県立高等学校入学者選抜合格発表ありました。それを受けて令和3年度入学予定者説明会のため、中学生の皆さんと保護者等の方が本校へ来校されました。本年度は推薦入試の志願倍率が**1.33倍**であり近年(過去10年間)では最も高い倍率でした。学力検査の志願倍率も**1.09倍**でした。

これは、卒業した先輩はもちろん、在校生の皆さんの頑張りや先生方の支援が、中学生やその保護者等及び地域の方々から高い評価をいただいたことに他なりません。

これら若商に対する期待に応え、自らの目標に近づくため在校生の皆さんは「志」を固め「強いこころ」を培いましょう。先生方も厳しくも面倒見良い「あたたかい心」で支えていきます。

